



## シャーシ プロファイル

---

- [シャーシ プロファイル Cisco UCS Manager](#) (1 ページ)
- [シャーシ プロファイルに関するガイドラインおよび推奨事項](#) (2 ページ)
- [シャーシ プロファイルの作成](#) (2 ページ)
- [シャーシ プロファイルの名前の変更](#) (4 ページ)
- [シャーシ プロファイルの削除](#) (6 ページ)
- [シャーシ プロファイルの関連付け](#) (6 ページ)
- [シャーシ プロファイル テンプレート](#) (8 ページ)
- [メンテナンス ポリシー](#) (14 ページ)
- [コンピューティング接続ポリシー](#) (16 ページ)

## シャーシ プロファイル Cisco UCS Manager

シャーシ プロファイルはシャーシのストレージ、ファームウェアとメンテナンスの特性を定義します。Cisco UCS S3260 シャーシのシャーシ プロファイルを作成できます。シャーシ プロファイルがシャーシに関連付けられると、Cisco UCS Manager は自動的にシャーシ プロファイルで指定された設定に一致するようにシャーシを設定します。



---

**重要** 各 S3260 シャーシは、いつの時点においても 1 つのシャーシ プロファイルだけに関連付けることができます。同様に、各シャーシ プロファイルは 1 度に 1 つの S3260 シャーシだけに関連付けることができます。

---

シャーシ プロファイルには、次の情報が含まれます。

- **Chassis definition** : プロファイルを割り当てる特定のシャーシを定義します。
- **Maintenance policy** : プロファイルに適用されるメンテナンス ポリシーが含まれます。
- **[Firmware specifications]** : このプロファイルによるシャーシに適用できるシャーシファームウェア パッケージを定義します。
- **[Disk zoning policy]** : ストレージディスクに適用されるゾーン分割ポリシーが含まれます。

- Compute Connection policy : プライマリ SIOC、補助 SIOC、およびサーバ間のデータパスを定義します。

## シャーシ プロファイルに関するガイドラインおよび推奨事項

シャーシ プロファイルまたはシャーシ プロファイル テンプレートに含まれるポリシー（ディスク ゾーン分割ポリシーなど）に固有のガイドラインと推奨事項に加え、シャーシ プロファイルとシャーシを関連付ける機能に影響する以下のガイドラインと推奨事項も順守してください。

- 各 S3260 シャーシは、1 個のみシャーシ プロファイルに関連付けることが可能です。同様に、各シャーシ プロファイルは 1 度に 1 つの S3260 シャーシ だけに関連付けることができます。
- シャーシ プロファイルは、Cisco UCS S3260 シャーシ 上でのみサポートされます。Cisco UCS 5108 ブレード サーバ シャーシは、シャーシ プロファイルをサポートしておらず、シャーシ プロファイルに関連付けることはできません。
- Cisco UCS S3260 シャーシ では、S シリーズ サーバ ソフトウェアの Cisco UCS Manager リリース 3.1(2) より前のバンドルはサポートされません。

## シャーシ プロファイルの作成

### 手順の概要

1. UCS-A# **scope org org-name**
2. UCS-A /org # **create chassis-profile profile-name instance**
3. (任意) UCS-A /org/chassis-profile\* # **set descr description**
4. (任意) UCS-A /org/chassis-profile\* # **set chassisfwpolicyname chassis-firmware-policy-name**
5. (任意) UCS-A /org/chassis-profile\* # **set chassis-profile-maint-policy policy-name**
6. (任意) UCS-A /org/chassis-profile\* # **set user-label label-name**
7. (任意) UCS-A /org/chassis-profile\* # **set src-templ-name source-chassis-profile-template-name**
8. (任意) UCS-A /org/chassis-profile\* # **set disk-zoning-policy disk-zoning-policy-name**
9. (任意) UCS-A /org/chassis-profile\* # **set compute-conn-policy compute-conn-policy-name**
10. (任意) UCS-A /org/chassis-profile\* # **set sas-expander-configuration-policy sas-expander-configuration-policy-name**
11. UCS-A /org/chassis-profile\* # **commit-buffer**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope org org-name</b>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、[org-name] に / を入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # <b>create chassis-profile profile-name instance</b>	指定したシャーシプロファイルインスタンスを作成し、組織サービスプロファイルモードを開始します。  このシャーシプロファイルを特定する一意の <i>profile-name</i> を入力します。  この名前には、1 ~ 16 文字の英数字を使用できません。- (ハイフン)、_ (アンダースコア)、: (コロン)、および . (ピリオド) は使用できますが、それ以外の特殊文字とスペースは使用できません。また、オブジェクトが保存された後にこの名前を変更することはできません。
ステップ 3	(任意) UCS-A /org/chassis-profile* # <b>set descr description</b>	シャーシプロファイルの説明を提供します。  (注) 説明にスペース、特殊文字、または句読点が含まれている場合、説明を引用符で括弧する必要があります。引用符は、 <b>show</b> コマンド出力の説明フィールドには表示されません。
ステップ 4	(任意) UCS-A /org/chassis-profile* # <b>set chassisfwpolicyname chassis-firmware-policy-name</b>	シャーシプロファイルに指定されたシャーシファームウェアポリシーを関連付けます。
ステップ 5	(任意) UCS-A /org/chassis-profile* # <b>set chassis-profile-maint-policy policy-name</b>	シャーシプロファイルに指定されたシャーシメンテナンスポリシーを関連付けます。
ステップ 6	(任意) UCS-A /org/chassis-profile* # <b>set user-label label-name</b>	シャーシプロファイルに関連付けられたユーザーラベルを指定します。
ステップ 7	(任意) UCS-A /org/chassis-profile* # <b>set src-templ-name source-chassis-profile-template-name</b>	シャーシプロファイルに指定されたシャーシプロファイルテンプレートをバインドします。
ステップ 8	(任意) UCS-A /org/chassis-profile* # <b>set disk-zoning-policy disk-zoning-policy-name</b>	シャーシプロファイルに指定されたディスクゾニングポリシーを関連付けます。
ステップ 9	(任意) UCS-A /org/chassis-profile* # <b>set compute-conn-policy compute-conn-policy-name</b>	

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 10	(任意) UCS-A /org/chassis-profile* # <b>set sas-expander-configuration-policy</b> <i>sas-expander-configuration-policy-name</i>	シャーシプロファイルに指定された SAS エクスパンダ設定ポリシーを関連付けます。
ステップ 11	UCS-A /org/chassis-profile* # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

### 例

次の例は、シャーシプロファイルインスタンスを作成してトランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org* # create chassis-profile ChassisProfile1 instance
UCS-A /org/chassis-profile* # set descr "This is a chassis profile example."
UCS-A /org/chassis-profile* # set chassis-profile-maint-policy chassismaintpol4
UCS-A /org/chassis-profile* # set user-label mycplabel
UCS-A /org/chassis-profile* # set chassisfwpolicyname cfpl
UCS-A /org/chassis-profile* # set src-templ-name chassispt1
UCS-A /org/chassis-profile* # set disk-zoning-policy dzpl
UCS-A /org/chassis-profile* # set compute-conn-policy ccpl
UCS-A /org/chassis-profile* # set sas-expander-configuration-policy secpl
UCS-A /org/chassis-profile* # commit-buffer
UCS-A /org/chassis-profile #
```

### 次のタスク

シャーシプロファイルを S3260 シャーシに関連付けます。

## シャーシ プロファイルの名前の変更

シャーシプロファイルの名前を変更すると、次のことが起こります。

- シャーシプロファイルの以前の名前を参照するイベント ログと監査ログは、その名前のまま保持されます。
- 名前変更の操作を記録する、新しい監査データが作成されます。
- シャーシプロファイルの以前の名前で生じたすべての障害データは、新しいシャーシプロファイル名に転送されます。



(注) 保留中の変更があるシャーシプロファイルの名前は変更できません。

手順の概要

1. UCS-A# **scope org org-name**
2. UCS-A /org # **scope chassis-profile profile-name**
3. UCS-A /org/chassis-profile # **rename-to new-profile-name**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope org org-name</b>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、[org-name] に / を入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # <b>scope chassis-profile profile-name</b>	指定されたシャーシプロファイルの組織シャーシプロファイルモードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /org/chassis-profile # <b>rename-to new-profile-name</b>	指定されたシャーシプロファイルの名前を変更します。  この名前には、1～16文字の英数字を使用できます。- (ハイフン)、_ (アンダースコア)、: (コロン)、および. (ピリオド) は使用できますが、それ以外の特殊文字とスペースは使用できません。また、オブジェクトが保存された後にこの名前を変更することはできません。  このコマンドを入力すると、これはスタンドアロン操作であり、CLIセッションのコミットされていないすべての変更が失われることがあるという警告がされます。続行するには確認のため <b>yes</b> を入力します。

例

この例では、シャーシプロファイルの名前を CP5 から CP10 に変更し、トランザクションをコミットする方法を示します。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org # scope chassis-profile CP5
UCS-A /org/chassis-profile # rename-to CP10
Rename is a standalone operation. You may lose any uncommitted changes in this CLI session.
Do you want to continue? (yes/no): yes
The managed object in the current mode no longer exists. Changing to mode: /org
UCS-A /org #
```

# シャーシ プロファイルの削除

この手順では、シャーシ プロファイルを削除する方法について説明します。

## 手順の概要

1. UCS-A# **scope org** *org-name*
2. UCS-A /org # **delete chassis-profile** *profile-name*
3. UCS-A /org\* # **commit-buffer**

## 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope org</b> <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、[org-name] に / を入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # <b>delete chassis-profile</b> <i>profile-name</i>	指定されたシャーシ プロファイルを削除します。
ステップ 3	UCS-A /org* # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

## 例

この例では、シャーシ プロファイル ChasInst90 を削除し、トランザクションをコミットする方法を示します。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org delete chassis-profile ChasInst90
UCS-A /org* # commit-buffer
UCS-A /org #
```

# シャーシ プロファイルの関連付け

## シャーシ プロファイルとシャーシの関連付け

作成時にシャーシ プロファイルをシャーシに関連付けなかった場合、またはシャーシ プロファイルに関連付けるシャーシを変更する場合には、次の手順を実行します。

## 手順の概要

1. UCS-A# **scope org** *org-name*
2. UCS-A /org # **scope chassis-profile** *profile-name*

3. UCS-A /org/chassis-profile # **associate chassis chassis-id [restrict-migration]**
4. UCS-A /org/chassis-profile\* # **commit-buffer**

### 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope org org-name</b>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、[org-name] に / を入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # <b>scope chassis-profile profile-name</b>	指定されたシャーシプロファイルの組織シャーシプロファイルモードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /org/chassis-profile # <b>associate chassis chassis-id [restrict-migration]</b>	シャーシプロファイルを単一のシャーシに関連付けます。  オプションの <b>restrict-migration</b> キーワードを追加すると、シャーシプロファイルは別のシャーシに移行されません。
ステップ 4	UCS-A /org/chassis-profile* # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

### 例

次の例は ChassisProf1 という名前のシャーシプロファイルとシャーシ 1 を関連付け、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org* # scope chassis-profile ChassisProf1
UCS-A /org/chassis-profile # associate chassis 1
UCS-A /org/chassis-profile* # commit-buffer
UCS-A /org/chassis-profile #
```

## シャーシ プロファイルとシャーシの関連付け解除

この手順は、シャーシからシャーシプロファイルの関連付けを解除する方法を説明します。



- (注) シャーシのシャーシプロファイルからの関連付けを解除するとき、ディスクゾーニングポリシーの効果は引き続きシャーシに残ります。

### 手順の概要

1. UCS-A# **scope org org-name**
2. UCS-A /org # **scope chassis-profile profile-name**

3. UCS-/org/chassis-profile # **disassociate**
4. UCS-A /org/chassis-profile\* # **commit-buffer**

#### 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope org</b> <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、 <i>org-name</i> に / と入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # <b>scope chassis-profile</b> <i>profile-name</i>	指定されたシャーシ プロファイルの組織シャーシ プロファイル モードを開始します。
ステップ 3	UCS-/org/chassis-profile # <b>disassociate</b>	シャーシからシャーシプロファイルの関連付けを解除します。
ステップ 4	UCS-A /org/chassis-profile* # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

#### 例

次の例は ChassisProf1 という名前のシャーシプロファイルとシャーシの関連付けを解除し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org* # scope chassis-profile ChassisProf1
UCS-A /org/chassis-profile # disassociate
UCS-A /org/chassis-profile* # commit-buffer
UCS-A /org/chassis-profile #
```

## シャーシ プロファイル テンプレート

### シャーシ プロファイル テンプレートの作成

#### 手順の概要

1. UCS-A# **scope org** *org-name*
2. UCS-A /org # **create chassis-profile** *profile-name* {**initial-template** | **updating-template**}
3. (任意) UCS-A /org/chassis-profile\* # **set descr** *description*
4. UCS-A /org/chassis-profile\* # **set chassisfwpolicyname** *chassis-firmware-policy-name*
5. UCS-A /org/chassis-profile\* # **set chassis-profile-maint-policy** *policy-name*
6. UCS-A /org/chassis-profile\* # **set user-label** *label-name*
7. UCS-A /org/chassis-profile\* # **set src-templ-name** *source-chassis-profile-template-name*
8. UCS-A /org/chassis-profile\* # **set disk-zoning-policy** *disk-zoning-policy-name*



- 9. UCS-A /org/chassis-profile\* # **set compute-conn-policy** *compute-conn-policy-name*
- 10. UCS-A /org/chassis-profile\* # **commit-buffer**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope org</b> <i>org-name</i>	指定した組織の設定モードに入ります。ルート組織モードを開始するには、 <i>org-name</i> に / を入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # <b>create chassis-profile</b> <i>profile-name</i> { <b>initial-template</b>   <b>updating-template</b> }	<p>指定したシャーシプロファイル テンプレートを作成し、組織サービス プロファイル モードを開始します。</p> <p>このシャーシプロファイルを特定する一意の <i>profile-name</i> を入力します。</p> <p>この名前には、1 ~ 16 文字の英数字を使用できます。- (ハイフン)、_ (アンダースコア)、: (コロン)、および . (ピリオド) は使用できますが、それ以外の特殊文字とスペースは使用できません。また、オブジェクトが保存された後にこの名前を変更することはできません。</p> <p>シャーシプロファイル テンプレート タイプ:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>initial-template</b>—このテンプレートが更新される場合、インスタントは自動的に更新されません。</li> <li>• <b>updating-template</b>—テンプレートが更新される場合、インスタンスは自動的に更新されます。</li> </ul>
ステップ 3	(任意) UCS-A /org/chassis-profile* # <b>set descr</b> <i>description</i>	<p>シャーシプロファイル テンプレートの説明を示します。</p> <p>(注) 説明にスペース、特殊文字、または句読点が含まれている場合、説明を引用符で括る必要があります。引用符は、<b>show</b> コマンド出力の説明フィールドには表示されません。</p>
ステップ 4	UCS-A /org/chassis-profile* # <b>set chassisfwpolycname</b> <i>chassis-firmware-policy-name</i>	シャーシプロファイル テンプレートと指定されたシャーシファームウェアポリシーを関連付けます。
ステップ 5	UCS-A /org/chassis-profile* # <b>set chassis-profile-maint-policy</b> <i>policy-name</i>	シャーシプロファイル テンプレートと指定されたシャーシ メンテナンス ポリシーを関連付けます。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 6	UCS-A /org/chassis-profile* # <b>set user-label</b> <i>label-name</i>	シャーシ プロファイルに関連付けられるユーザ ラベルを指定します。
ステップ 7	UCS-A /org/chassis-profile* # <b>set src-templ-name</b> <i>source-chassis-profile-template-name</i>	シャーシ プロファイルに指定されたシャーシ プロファイル テンプレートをバインドします。
ステップ 8	UCS-A /org/chassis-profile* # <b>set disk-zoning-policy</b> <i>disk-zoning-policy-name</i>	シャーシ プロファイル テンプレートに指定されたディスク ゾーン分割ポリシーを関連付けます。
ステップ 9	UCS-A /org/chassis-profile* # <b>set compute-conn-policy</b> <i>compute-conn-policy-name</i>	シャーシ プロファイル テンプレートに指定されたコンピューティング接続ポリシーを関連付けます。
ステップ 10	UCS-A /org/chassis-profile* # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

### 例

次の例は、シャーシプロファイルテンプレートを作成してトランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org* # create chassis-profile ChassisProTempl updating-template
UCS-A /org/chassis-profile* # set descr "This is a chassis profile template example."
UCS-A /org/chassis-profile* # set chassis-profile-maint-policy chassismaintpol2
UCS-A /org/chassis-profile* # set user-label mycptlabel
UCS-A /org/chassis-profile* # set chassisfwpolicyname cptf1
UCS-A /org/chassis-profile* # set src-templ-name chassispt1
UCS-A /org/chassis-profile* # set disk-zoning-policy dzpl
UCS-A /org/chassis-profile* # set compute-conn-policy ccpl
UCS-A /org/chassis-profile* # commit-buffer
UCS-A /org/chassis-profile #
```

### 次のタスク

シャーシプロファイルテンプレートからシャーシプロファイルインスタンスを作成します。

## シャーシ プロファイル テンプレートからのシャーシ プロファイル インスタンスの作成

### 始める前に

シャーシプロファイルインスタンスを作成するためのシャーシプロファイルテンプレートがあることを確認します。

### 手順の概要

1. UCSC(resource-mgr)# **scope org** *org-name*

2. UCSC(resource-mgr) /org # **create chassis-profile** *profile-name* **instance**
3. UCSC(resource-mgr) /org/chassis-profile\* # **set src-templ-name** *profile-name*
4. Ucs (resource-mgr)/組織/シャーシ-プロファイル \* # **commit-buffer**

## 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCSC(resource-mgr)# <b>scope org</b> <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、[org-name] に / を入力します。
ステップ 2	UCSC(resource-mgr) /org # <b>create chassis-profile</b> <i>profile-name</i> <b>instance</b>	指定したシャーシ プロファイル インスタンスを作成し、組織サービス プロファイル モードを開始します。  このシャーシ プロファイル を特定する一意の <i>profile-name</i> を入力します。  この名前には、1 ～ 16 文字の英数字を使用できます。- (ハイフン)、_ (アンダースコア)、: (コロン)、および . (ピリオド) は使用できますが、それ以外の特殊文字とスペースは使用できません。また、オブジェクトが保存された後にこの名前を変更することはできません。
ステップ 3	UCSC(resource-mgr) /org/chassis-profile* # <b>set src-templ-name</b> <i>profile-name</i>	元になるシャーシ プロファイル テンプレートを指定してシャーシ プロファイル インスタンスに適用します。シャーシ プロファイル テンプレートからのすべての設定が、シャーシ プロファイル インスタンスに適用されます。
ステップ 4	Ucs (resource-mgr)/組織/シャーシ-プロファイル * # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

## 例

次の例は、ChassisProf02 という名前のシャーシ プロファイル インスタンスを作成し、ChassisProfTemp2 という名前の sh が一し プロファイル テンプレートを適用し、トランザクションをコミットします。

```
UCSC (resource-mgr) # scope org /
UCSC (resource-mgr) /org* # create chassis-profile ChassisProf02 instance
UCSC (resource-mgr) /org/chassis-profile* # set src-templ-name ChassisProfTemp2
UCSC (resource-mgr) /org/chassis-profile* # commit-buffer
UCSC (resource-mgr) /org/chassis-profile #
```

## 次のタスク

シャーシ プロファイルをシャーシに関連付けます。

## シャーシ プロファイル テンプレートへのシャーシ プロファイルのバインディング

シャーシ プロファイルをシャーシ プロファイル テンプレートにバインドすることができます。シャーシ プロファイルをテンプレートにバインドした場合、Cisco UCS Manager により、シャーシ プロファイル テンプレートに定義された値を使って、シャーシ プロファイルが設定されます。既存のシャーシ プロファイル設定がテンプレートに一致しない場合、Cisco UCS Manager により、シャーシ プロファイルが再設定されます。バインドされたシャーシ プロファイルの設定は、関連付けられたテンプレートを使用してのみ変更できます。

## 手順の概要

1. UCS-A# **scope org** *org-name*
2. UCS-A /org # **scope chassis-profile** *profile-name*
3. UCS A/org/chassis-profile # **set src-templ-name***chassis-profile-template-name*
4. UCS-A /org/chassis-profile\* # **commit-buffer**

## 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope org</b> <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、[org-name] に / を入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # <b>scope chassis-profile</b> <i>profile-name</i>	指定されたシャーシ プロファイルの組織シャーシ プロファイル モードを開始します。
ステップ 3	UCS A/org/chassis-profile # <b>set src-templ-name</b> <i>chassis-profile-template-name</i>	シャーシ プロファイルに指定されたシャーシ プロファイル テンプレートをバインドします。
ステップ 4	UCS-A /org/chassis-profile* # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

## 例

次の例では、ChassisProfileTemplate1 に ChassisProf1 という名前のシャーシ プロファイルをバインドし、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope org
UCS-A /org # scope chassis-profile ChassisProf1
UCS-A /org/chassis-profile # set src-templ-name ChassisProfileTemplate1
UCS-A /org/chassis-profile* # commit-buffer
UCS-A /org/chassis-profile #
```

## シャーシ プロファイル テンプレートからのシャーシ プロファイルのバインド解除

シャーシ プロファイル テンプレートからシャーシ プロファイルをアンバインドするには、空の値（スペースなしの引用符）にシャーシ プロファイルをバインドします。

### 手順の概要

1. UCSC # **scope org** *org-name*
2. UCSC /org # **scope chassis-profile** *profile-name*
3. UCSC/org/chassis-profile # **set src-templ-name** ""
4. UCSC /org/chassis-profile\* # **commit-buffer**

### 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCSC # <b>scope org</b> <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、[org-name] に / を入力します。
ステップ 2	UCSC /org # <b>scope chassis-profile</b> <i>profile-name</i>	指定されたシャーシ プロファイルの組織シャーシ プロファイル モードを開始します。
ステップ 3	UCSC/org/chassis-profile # <b>set src-templ-name</b> ""	シャーシ プロファイル テンプレートからのシャーシ プロファイルのバインド解除
ステップ 4	UCSC /org/chassis-profile* # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

### 例

次の例では、ChassisProf1 という名前のシャーシ プロファイルをバインド解除し、トランザクションをコミットします。

```
UCSC# scope org
UCSC /org # scope chassis-profile ChassisProf1
UCSC /org/chassis-profile # set src-templ-name ""
UCSC /org/chassis-profile* # commit-buffer
UCSC /org/chassis-profile #
```

# メンテナンス ポリシー

## シャーシ プロファイル メンテナンス ポリシーの作成

### 手順の概要

1. UCS-A# **scope org** *org-name*
2. UCS-A /org # **create chassis-profile-maint-policy** *policy-name*
3. UCS A/org/chassis-profile-maint-ポリシー \* # **set reboot-policy user-ack**
4. (任意) UCS-/org/chassis-profile-maint-policy \* # **set descr** *description*
5. (任意) UCS A/org/chassis-profile-maint-ポリシー \* # **set policy-owner global | local**
6. UCS-A /org/maint-policy #\* **commit-buffer**

### 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope org</b> <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、[org-name] に / を入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # <b>create chassis-profile-maint-policy</b> <i>policy-name</i>	指定されたメンテナンスポリシーを作成し、メンテナンス ポリシー モードを開始します。
ステップ 3	UCS A/org/chassis-profile-maint-ポリシー * # <b>set reboot-policy user-ack</b>	ポリシーがシャーシに関連付けられると、シャーシは関連付けを完了するために再確認する必要があります。ユーザは、変更が適用される前に <b>apply pending-changes</b> コマンドを使用して変更を明示的に確認する必要があります。
ステップ 4	(任意) UCS-/org/chassis-profile-maint-policy * # <b>set descr</b> <i>description</i>	ポリシーの説明。ポリシーを使用する場所とタイミングについての情報を含めることを推奨します。
ステップ 5	(任意) UCS A/org/chassis-profile-maint-ポリシー * # <b>set policy-owner global   local</b>	メンテナンス ポリシーの所有者を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>global</b> - グローバル ポリシーの所有権は Cisco UCS Central にあるため、Cisco UCS Manager を使用してこのポリシー所有権を変更することはできません。1 つ以上の登録済み Cisco UCS ドメイン内のシャーシにグローバル ポリシーを関連付けることができます。</li> <li>• <b>local</b> - 同じドメインのローカル ポリシーでのみシャーシを関連付けることができます。</li> </ul>

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 6	UCS-A /org/maint-policy #* <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

#### 例

次の例は、「maintenance」という名前のメンテナンスポリシーを作成し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org # create chassis-profile-maint-policy maintenance
UCS-A /org/chassis-profile-maint-policy* # set reboot-policy user-ack
UCS-A /org/chassis-profile-maint-policy* # commit-buffer
UCS-A /org/maint-policy #
```

## シャーシ プロファイル/シャーシ プロファイル テンプレートのメンテナンス ポリシーの設定

### 手順の概要

1. UCS-A# **scope org org-name**
2. UCS-A /org # **scope chassis-profile profile-name|template-name**
3. UCS A/org/chassis-profile # **set chassis-profile-maint-policy maintenance-policy-name**
4. UCS-A /org/chassis-profile\* # **commit-buffer**

### 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope org org-name</b>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、[org-name] に / を入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # <b>scope chassis-profile profile-name template-name</b>	指定されたシャーシ プロファイルの組織シャーシ プロファイルまたはシャーシ プロファイル テンプレート モードを開始/シャーシ プロファイル テンプレート/。
ステップ 3	UCS A/org/chassis-profile # <b>set chassis-profile-maint-policy maintenance-policy-name</b>	指定されたメンテナンス ポリシーを chassis profile//chassis profile template に関連付けます。 既存のメンテナンス ポリシー名を使用するか、新しいポリシーを入力します。
ステップ 4	UCS-A /org/chassis-profile* # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

## 例

次の例では、シャーシプロファイルにメンテナンスポリシーを関連付け、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope org
UCS-A /org # scope chassis-profile ChassisProfile1
UCS-A /org/chassis-profile # set chassis-profile-maint-policy default
UCS-A /org/chassis-profile* # commit-buffer
UCS-A /org/chassis-profile #
```

## コンピューティング接続ポリシー

コンピューティング接続ポリシーは、サーバ SIOC 接続のユーザ設定を保存するために使用されます。これらの設定は、[Server SIOC Connectivity] プロパティを使用して行われます。このプロパティは次のいずれかに設定できます。

- [single-server-single-sioc] (デフォルト) : シャーシに単一サーバと単一 SIOC またはデュアルサーバとデュアル SIOC が装着されている場合に、1 つの SIOC を経由するデータパスを設定します。
- [single-server-dual-sioc] : 有効な場合は、シャーシに単一サーバとデュアル SIOC が装着されていると、プライマリ SIOC および補助 SIOC の両方を経由するデータパスを設定できます。詳細については、[Server SIOC Connectivity 機能](#)を参照してください。

## コンピューティング接続ポリシーの作成

### 手順の概要

1. UCS-A# **scope org**
2. UCS-/org # **create compute-conn-policy** *compute-conn-policy-name*
3. (任意) UCS-A /org/compute-conn-policy\* # **set descr** *description*
4. UCS-A /org/compute-conn-policy\* # **set server-sioc-connectivity** {**single-server-dual-sioc** | **single-server-single-sioc**}
5. UCS A/org/compute-conn-policy # **commit-buffer**

### 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope org</b>	ルート組織モードを開始します。
ステップ 2	UCS-/org # <b>create compute-conn-policy</b> <i>compute-conn-policy-name</i>	指定されたコンピューティング接続ポリシーを作成します。



	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	(任意) <code>UCS-A /org/compute-conn-policy* # set descr description</code>	<p>ポリシーの説明を記します。</p> <p>(注) 説明にスペース、特殊文字、または句読点が含まれている場合、説明の前後に引用符を付ける必要があります。引用符は、<code>show</code> コマンド出力の説明フィールドには表示されません。</p>
ステップ 4	<code>UCS-A /org/compute-conn-policy* # set server-sioc-connectivity {single-server-dual-sioc   single-server-single-sioc}</code>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• [single-server-single-sioc (デフォルト)] : シャーシに単一サーバと単一 SIOC またはデュアルサーバとデュアル SIOC が装着されている場合に、1 つの SIOC を経由するデータパスを設定します。</li> <li>• [single-server-dual-sioc] : 有効な場合は、シャーシに単一サーバとデュアル SIOC が装着されていると、プライマリ SIOC および補助 SIOC の両方を経由するデータパスを設定できます。詳細については、<a href="#">Server SIOC Connectivity 機能</a>を参照してください。</li> </ul>
ステップ 5	<code>UCS A/org/compute-conn-policy # commit-buffer</code>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

```
UCS-A# scope org
UCS-A /org # create compute-conn-policy ccptest
UCS-A /org/compute-conn-policy* # set descr "This is an example policy."
UCS-A /org/compute-conn-policy* # set server-sioc-connectivity single-server-dual-sioc
UCS-A /org/compute-conn-policy* # commit-buffer
UCS-A /org/compute-conn-policy #
```

## コンピューティング接続ポリシーとシャーシプロファイルの関連付け

手順の概要

1. `UCS-A# scope org`
2. `UCS-/org # scope chassis_profile chassis-profile-name`
3. `UCS-A /org/chassis-profile# set compute-conn-policy compute-conn-policy-name`
4. `UCS-/org/chassis-profile # commit-buffer`
5. `UCS-/org/chassis-profile # apply pending-changes immediate`
6. `UCS-/org/chassis-profile # commit-buffer`

## 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope org</b>	ルート組織モードを開始します。
ステップ 2	UCS-/org # <b>scope chassis_profile chassis-profile-name</b>	シャーシ プロファイル モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /org/chassis-profile# <b>set compute-conn-policy compute-conn-policy-name</b>	シャーシプロファイルに指定されたコンピューティング接続ポリシーに関連付けます。
ステップ 4	UCS-/org/chassis-profile # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。
ステップ 5	UCS-/org/chassis-profile # <b>apply pending-changes immediate</b>	保留中の変更を確認し、プロファイルの関連付けをトリガーします。  (注) コンピューティング接続ポリシーの設定を変更すると、保留イベントが発生します。この保留イベントを確認した後でのみ、シャーシプロファイルの関連付けが自動的に開始します。
ステップ 6	UCS-/org/chassis-profile # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

## 例

```
UCS-A# scope org
UCS-A /org # scope chassis-profile chassisprofile1
UCS-A /org/chassis-profile # set compute-conn-policy comconpolicy1
UCS-A /org/chassis-profile* # commit-buffer
UCS-A /org/chassis-profile # apply pending-changes immediate
UCS-A /org/chassis-profile* # commit-buffer
```